

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
 タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代表校名 (連携大学名)	滋賀医科大学
事業名	消化器難病の克服を目指す最先端臨床研究推進事業
事業責任者	滋賀医科大学理事（研究・企画・国際担当）遠山 育夫
事業の概要	
<p>本学は消化器がんや炎症性腸疾患という消化器疾患の分野で国際的な臨床研究の実績を有するとともに、最先端医療機器の開発にも取り組んでおり、出血なくミストも出さずに臓器を切断できるマイクロ波手術機器の開発で令和4年度文部科学大臣賞を受賞している。本事業では、消化器系の臨床研究の更なる発展と人材育成を目指し、臨床研究開発センターに研究支援員を配置し、SUMS 臨床研究推進プログラムを実施する。本プログラムでは、経験豊富な教員が大学院生を含む若手研究者に対し、計画の立案から結果の解析・成果発表まで指導する。医学部学生は SA としてこのプログラムに参加して実際の臨床研究に参画し、実務を通して臨床研究者としての素地を身につける。大学院生は、RA として臨床研究の実務に関わり臨床研究能力を多編めるとともに、TA として SA の指導を行う。臨床研究センターと産学連携部門が企業等とともに伴走・支援し、成果に結びつける。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○消化器難病の分野における実績を活かす計画であり、実行性が期待できる。</p> <p>○国際レベルの機器開発実績があり、先端がん研究センター、臨床研究開発センターを活用。</p> <p>○年次進行によって人数が増えると思われる予算を計上している。</p> <p>○TA、RA、SA のトレーニングプログラムが構築されており、体系的な教育及びトレーニングが可能。</p> <p>○大学院生に対するメンターシッププログラムの活用を計画している。</p> <p>○「きめ細かな臨床教育の実施」と「指導医の教育負担の軽減」の両立が困難であることを明記し、その対策が練られている。</p> <p>○TA の採用条件を明記した上での公募制度などに具体性があり、TA にプレ FD を実施することで現在の医学教育を理解した指導医を養成できる。</p> <p>○自治体、他組織との取組が記載されており、拠点大学としての取組が期待できる。</p> <p>○動物生命科学研究センターを保有し、研究成果を臨床に持ち込む体制、拠点の役割が明確である。</p> <p>○附属病院職員の負担は軽減される可能性があり、出産・育児に対しての取組も評価できる。</p> <p>○研究活動統括本部に臨床研究開発センターに加え、研究成果の実装化を担う Biomedical Business Development Unit がある点。</p> <p>○間接経費を用いた本事業の継続を打ち出しており、取組が明確である。</p> <p>○初年度の人材獲得から、国際シンポジウムの開催へと国際レベルの研究推進が期待できる。</p> <p>●研究分野が消化器関連のみに留まらず、この事業により形成された種々の学内組織が他の分野の研究へも広がることを期待したい。</p> <p>●計画で述べられている業務をきちんとこなせる人材が採用されることを期待したい。</p> <p>●大学院生に多くの負担が予想されるため、TA、RA に負担が増大しないよう、検討が望ましい。</p> <p>●指導経験のある TA を県内に残すアイデアはよいがその方略を示すことが望ましい。</p> <p>●必要なところに情報がリーチするか不明瞭であり、アウトプットの方略の工夫が望ましい。</p> <p>●令和11年度にとどまらず、複数のシンポジウムやミーティングの機会を盛り込み人材育成が活性化することを期待したい。</p>	